

学校教育目標

目指す児童像

こころやさしくたすけあう子
さがしもとめて学ぶ子
からだをきたえ明るい子
きまりをまもりやりぬく子

本年度の児童の実態より（全体課題）

学校経営方針

本校教育課程

※学力調査のから、本校児童には次のような課題が見えてくる。
・異分母の分数の加法が十分に定着していない。領域 A 数と計算
・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができない。（領域 C 変化と関係）
・四捨五入について理解が定着していない。領域 A 数と計算

1 年生…計算スピードが遅い。（手を使っている。）数の構成の理解が不十分である。文章題の読み取り、答え方が定着していない。式の説明や考え方の説明に取り組み始めたが、上手に説明できる児童は少ない。

2 年生…長さ、体積、時刻、時間など、数量に関する概念の理解に課題を抱える児童が少なくない。特に数量のまとまりを捉える力や計算速度に個人差が大きく、文章問題において題意を正確に把握することに困難を覚える児童が多いという状況が見られる。

3 年生…文章問題において、立式の根拠となる数をとらえることを苦手とする傾向にある。

4 年生…学力調査では、全国平均を下回った。特に、数の相対的な関係をつかむ問題と、場面を想起しながら解決する問題について課題が存在している。

5 年生…学力調査では、全国平均をやや下回っている。とくに数と計算の領域は平均点が低い。一方で、変化と関係の領域に関しては、県平均をやや上回る結果であった。

6 年生…全国平均をやや下回っている。「数と計算」以外の 4 領域で全国平均を下回っている。特に、「変化と関係」に課題があった。中央値が全国平均より低く、中間より低い層が多いのが課題である。問題を粘り強く読み進め、題意を的確に理解する力が不十分である。

方策

*9 月からの取組 ○キュービナを活用し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ○クロームブックを活用し、個別最適化な学びと協働的な学びの往還を意識した授業づくりを行う。 ○長崎県授業改善メソッド及びあじさいスタンダードを意識した授業づくりを徹底する。		成果の検証
1 年	・授業の最初に、計算力を高めるために定期的にスキルアップの時間をとる（計算カード、フラッシュカードなど）。 ・「キュービナ」「アシストシート」を使って活用力を身に付けさせる（宿題→解説）。 ・文章題のキーワードに着目させ、ラインを引きながら立式させる。 ・式の意味を考えさせるため、子供が対話する場面を多く設ける。	・課題プリントや 単元末テストでの 検証を行う。
2 年	・数量の関係を絵や図に表す活動や、図と式を関連付けて説明しあう学習活動を設ける。 ・「キュービナ」やプリント等を活用し、基本的な計算の反復練習を行い、基礎学力の定着を図る。個に応じた課題に取り組ませる。また、応用問題にも意図的に取り組ませ、多様な問題に慣れさせる。 ・問題文に出てくるキーワードに線を引いたり、赤青鉛筆で色付けしたりする活動を通して、何が問われているのか意識させて立式させる。 ・具体的操作活動の場面を増やす。	・課題プリントや 単元末テストでの 検証を行う。
3 年	・単元の終末には、式に合う問題づくりに取り組ませる。 ・計算力の個人差をうめるために、キュービナやプリント等を活用し、四則計算の練習を継続する。	・課題プリントや 単元末テストでの 検証を行う。
4 年	・問題場面を具体的に想像できるように、数量の関係を絵や図に表す活動を行う。また、図と式を関連付けて立式の根拠や解決の仕方を説明し合う対話活動の時間を設定し、多様な考え方を知り、よりよい解法に気付けるようにする。 ・課題に反復して取り組んだり、間違えた問題をやり直したりする経験を通して、習熟を図る。	・課題プリントや単 元末テストでの検 証を行う。 ・授業後の振り返り で、学び方の達成度 を図る。
5 年	・授業の中で、数量の関係を絵や図に表しながら、説明を書く時間を確保し、その根拠を友達と話し合う活動を取り入れていく。 ・「キュービナ」を活用し、下学年の復習にも取り組ませ、基礎学力の定着を図る。 ・具体物の操作活動を通して、図形の性質についての理解を深めるようにする。 ・プレテストを実施したり、練習問題に取り組ませ、学習の定着を図る。	・課題プリントや単 元末テストでの検 証を行う。 ・授業後の振り返り で、学び方の達成 度を図る。
6 年	・「キュービナ」を活用し、下学年の復習にも取り組ませ、基礎学力の定着を図る。 ・日常生活とつながる問題の設定をし、自分で問題を読み進め、解決する力をつける。	・検証テストを実施 し、その得点を分析 することで、検証す ることができるよ うにする。